

本号主題の名称について小委員の間で“診断の進歩”では平凡すぎるので何かアピールするものはないかと考えましたが、なかなか良い思案が浮かびません。目次をご覧になればおわかりのように内視鏡生検も可能となったことから、早期胃癌の牙城に迫るということもできるが、現に生検をして診断しているのであるから物足りないといわれそうだし、肩を並べるところまで来たと言えどご年配の方から叱られそうだし、第一「胃と腸」に対して失礼かもしれません。といったようなわけで表紙のごとくに落ち着きました。しかし、早期胆嚢癌発見への足掛かりをつかんだことは確かであり、その方法もわかってきたようです。すなわち US で何か怪しいものが見つかったら、迷うことなく胆嚢に近づいて隣りから内視鏡的に調べる。それで正体が判明しなかったら直接胆嚢内に

入って自分の目で確かめる。そして必要に応じて材料を採ってきて鑑識へ回すという操作を早く、効率良く行うことが大切でありましょう。

現場百回というごとく、まず正常、異常を問わず胆嚢のマクロを数多く観察して、そこから各検査所見のイメージを掴むという胃で行った基本的トレーニングさえ真面目にやれば、さほど困難ではないと思いますがいかがでしょうか。

最近では全国津々浦々で US が行われておりますが、かえって異常所見が見つかりすぎて精密検査も思うにまかせず、治療をするにも有効と言えるものもなく、さりとて放置して経過観察するのは心配だしと内心お困りの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そういった悩みをいくらかでも本号が解決できれば望外の喜びであります。

胃と腸

6月号(第21巻・第6号)予告

発売予定 6月2日
定価 1,700円

主題／大腸生検の問題点—炎症性疾患の経過を中心に

序 説	浜松医大・1 病理	喜 納 勇
主 題	潰瘍性大腸炎	東女医大・消センター 長 廻 紘
	Crohn 病	福岡大筑紫病院・消 八 尾 恒 良
	虚血性大腸炎および抗生剤起因性大腸炎	山口大・1 内 針間 喬・他
	アメルバ赤痢	大阪市大・3 内 北野 厚生・他
主題症例	大腸生検によりアミロイドーシスと確診された1例	大阪市大・3 内 北野 厚生・他
	内視鏡的にアメルバ赤痢が疑われ、生検で悪性リンパ腫と	
	確診された1例	東北大・3 内 三浦 正明・他
	潰瘍性大腸炎と臨床診断され、4年後の生検でアメルバ赤	
	痢と確診された1例	東大・1 外 久保田芳郎・他
	生検が診断に有用であった大腸結核の1例	弘前大・1 内 畑田 康政・他
	分類不能な大腸炎と診断され生検でアメルバ性大腸炎と確	
	診された1例	東医大・4 内 宮岡 正明・他
	“原発性”大腸結核症の1例	自治医大・消 田中 昌宏・他

(編集頁の都合で掲載論文が若干変更になることがあります。)

胃と腸(第21巻 第5号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5714

販売部直通 (03) 817-5659

1986年5月25日発行(毎月25日発行)

1部定価1,700円(配送料80円)

年ぎめ予約購読料19,080円(送料弊社負担)

FAX (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5711

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1986, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることありますので御注意下さい。

(担当) 長谷川・窪田・大竹